

## 防災ガイド本、住民の手で 浜松の防災士ら発行

浜松市南区新橋町の防災士須和部信一さん（56）ら町内在住の3人が今春、地域防災力の向上を目的に、新橋町独自の防災ガイドブックを発行した。住民による地域単位の防災ガイドは全国的にも珍しいという。地域事情に即した津波避難計画案も掲載した。

新橋町は遠州灘海岸から2キロ前後の住宅や田畑が広がる地域で、約1800世帯4500人が生活している。市では行政区ごとの避難行動計画を全戸配布しているが、2016年に防災士の資格を取得した須和部さんは、より地域に密着した防災マニュアルを作成しようと思いついた。

須和部さんが著者で、知人の自営業内山徹さん（49）が構成を考え、挿絵は内山さんの知り合いで専門学校生の中村海音さん（18）が手掛けた。須和部さんは「以前に自治会長を務めたが、防災対策は何もできなかった」と振り返り、「災害に対して危機感を持たなかったり諦めたり、無関心になるのではなく、防災を推進する町民を増やしたい」と思いを語る。

ガイドブックには、地域の津波避難ビルの確認や地震発生後の行動シミュレーションなど個人でできる事前の備えを記した。実在する地区を例に、大地震発生直後に避難ビルへ向かう際、高齢者など要援護者を手助けしながら避難する計画も提案している。遠州灘防潮堤の整備状況、住宅耐震化の補助制度など公の対策も紹介し、親しみやすいよう挿絵もちりばめた。

子ども向け学習教材を構成した経験があり、消防団分団長も務めた内山さんは「まず手に取ってもらうことが重要。住民同士が話し合うきっかけになれば」と話す。

ガイドブックはA5判32ページで、2千部発行し、自治会を通じて新橋町の全世帯に配布した。近隣の特別養護老人ホームの防災マニュアルも3人で作成中で、年内に完成させる予定。地域独自の防災ガイド本を他地区にも広げる考えだ。

